

あま市地域福祉計画第1回策定委員会 議事録

日時：平成29年8月25日（金）14時～

場所：あま市甚目寺総合福祉会館 1階 会議室

1. あいさつ

2. 協議事項

(1) あま市地域福祉計画策定委員会委員長の互選について

(2) あま市地域福祉に関するアンケート調査について

(3) その他

1. あいさつ

事務局： みなさん、こんにちは。定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

それでは只今から、あま市地域福祉計画策定委員会を開催させていただきます。この委員会は、あま市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条に基づき、公開で開催いたします。

尚、今回は傍聴人の方はみえませんので、このまま進めさせていただきます。

また、本日は服部委員、加藤美由紀委員、中山委員の3委員より所用のため欠席の連絡が入っておりますので、ご報告いたします。

それでは開催にあたりまして、早川副市長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願い致します。

副市長： 副市長の早川でございます。

本日は、お忙しい中、また非常に厳しい暑さの中、地域福祉計画策定委員会にお集まりいただき、誠に有り難うございます。村上あま市長が他の公務のため失礼をさせていただきますいておりますので、私から、開会にあたってのご挨拶を申し上げます。

最初に、本日、お集まりの委員の皆様におかれましては、本市行政を進める中、これまで色々な場面でご理解とご協力をいただいておりますことに、まずもって感謝申し上げます。

さて、本市の地域福祉計画につきましては、『きずなを高める 暮らしやすいまち あま』を基本理念として、三つの基本目標を定め、平成26年度から平成30年度までの5か年計画として策定し、関係団体や市民の皆様のご協力のもと、施策展開をしてまいりました。しかしながら、すべての施策が順調に進んでいるかということ、まだ道半ばという施策もある中、市をとりまく社会情勢や地域の変化により生じる、住民の皆様の福祉ニーズも多様化し、その対応も進めなければなりません。

委員の皆様方には、こうした状況も含め、ご議論をいただきながら、今年度と来年度の2か年で「第2次あま市地域福祉計画」を策定してまいりたいと考えております。

近年では、南海トラフ巨大地震への備えも叫ばれておりますが、大規模災害時など、いざという時も含め、市民の皆様が安心して暮らすためには、身近な地域における住民同士の支えあいや、福祉関係者との連携が非常に重要であり、今後のあま市における福祉全般を総合的に推進するための本計画においても、施策の大きな柱になるものと考えております。

委員の皆様におかれましては、計画策定にあたり、忌憚のないご意見をいただき、本計画が、あま市の福祉行政の更なる発展に寄与するものとなるよう、お力添えをお願い申し上げます。開会にあたってのあいさつとさせていただきます。

事務局： ありがとうございます。尚、副市長はこの後、他の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。

副市長： よろしく申し上げます。失礼いたします。

事務局： それでは最初に、本日の配布資料の確認をさせていただきます。

「次第」、「委員名簿」、「配席図」、「要綱」、資料1「あま市第2次地域福祉計画の策定にあたって」、資料2「あま市地域福祉計画策定スケジュール(案)」、平成26年3月策定の「あま市地域福祉計画・あま市社会福祉協議会地域福祉活動計画」冊子となります。なお、事前に郵送させていただきました「あま市地域福祉に関するアンケート調査票(案)」をご持参でない委員がおられましたら、お申し出ください。資料につきまして不足はございませんか。よろしいでしょうか。それでは先に進めさせていただきます。

ここで、策定委員の皆様をご紹介するのが本意ですけれども、時間の都合上、先程配布資料としてご確認いただきました委員名簿にて代えさせていただきます。よろしく申し上げます。

また、社会福祉協議会より職員3名と、今回計画の策定をお手伝いいただきます株式会社サーベイリサーチセンターの職員の方にもご同席をいただいておりますので、よろしく申し上げます。

本日の策定委員会は初めての委員会でありますので、委員長が選出されるまで事務局におきまして、議事進行を進めさせていただきます。ご異議の方、ありませんでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは進めて参ります。

2. 協議事項

(1) あま市地域福祉計画策定委員会委員長の互選について

事務局： それでは次第をご覧ください。

『(1) あま市地域福祉計画策定委員会委員長の互選について』を議題といたします。
あま市地域福祉計画策定委員会要綱第6条の規定により、本策定委員会の委員長の選出は、各委員の互選により選出することとなっております。何かご意見はございませんか。

委員： 牧村委員にお願いしてはいかがでしょうか。

事務局： ありがとうございます。只今、松本委員より同朋大学准教授の牧村委員にお願いしたらどうかというお声がありましたが、委員長を牧村委員にお願いすることにご異議ございませんか。

委員： 異議なし。

事務局： ありがとうございます。異議なしと認め、策定委員会の委員長は牧村委員にお願いする事とします。牧村委員、議長席に移動をお願いします。

それでは牧村委員から、委員長就任のご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

委員長： 只今、委員の皆さんからご指名いただき、あま市地域福祉計画策定委員会委員長という重大な責務を任される事となりました。平成31年3月に第2次あま市地域福祉計画を策定するため、委員の方々と一緒に協議していきたいと思っております。不慣れではございますけれども、皆様のご協力により策定委員会の議事が円滑に進むようお願いし、委員長の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局： ありがとうございます。只今、委員長が選出されました。策定委員会要綱第6条第2項の規定により、策定委員会の委員長が議長を務めることになっておりますので、これ以降は牧村委員長に議事進行をお願いしたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

委員長： それでは議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

策定委員会要綱第6条第3項の規定によって、委員長に事故があるときに職務を代理する委員は委員長の指定という事で、私の方から指定させていただきます。委員さんは、あま市民生委員児童委員協議会会長の井村委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) あま市地域福祉に関するアンケート調査について

委員 長： 続いて、『(2) あま市地域福祉に関するアンケート調査について』を議題といたします。事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局： 事務局の方から説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【資料1、資料2及びアンケート調査票(案)について説明】

説明は以上になります。ご審議よろしくお願いいたします。

委員 長： 只今、事務局から説明がございましたが、何かご意見・ご質問等はございますでしょうか。

委員： 送っていただいた資料に“平成26年に策定し”と書いてありましたが、私は前回全く関わっていなかったもので、前の計画がどうなっているのか知りたいと思っていましたら、今日、この冊子がありました。皆さんお持ちの方もあるかも分かりませんが、本来であれば、これも前もっていただいておいて、どの程度の内容で、今回は3年経ってどのようなニーズの変化をしているか、というのを調べた上でアンケート調査の内容を検討する状態だと思います。ですので、3年経ってどの程度の達成率とまではいきませんが、この目標に対して10%できたとか、基礎ができた等、そういう数字も欲しいと思いました。そうでないと、このアンケートをしても前回と同じ内容のような感じになってしまうので、この3年の間にどの程度の変化があつてこのようなアンケート内容に至ったという、納得できるものが欲しかったと思います。以上です。

委員 長： はい。ご質問ありがとうございます。皆さんのお手元にも来ております、平成26年度～30年度の今やっている最中でありまして、前回の地域福祉活動計画というところで、まだまだこれからだという事を承知の上ですが、その辺りについてどうお考えなのか、事務局の方、答えられる範囲でお願いできますか。

事務局： ご質問いただきました内容につきまして、ご回答させていただきたいのですが、現況では地域福祉計画の進捗状況につきまして、チェックをしている段階です。その中で達成状況だとか、その辺りにつきまして今後の策定委員会の中で「今、あま市の中ではこういう状況で事業が進んでいる」というところをご報告させていただきながら、次期の計画に反映させていただきたいと思っておりますので、ご理解の方、よろしくお願いいたします。

委員 長： はい、ありがとうございました。これから追々その辺りについては、この中で把握していきたいと思っております。

委員： ぜひ、きちっとしたもので、絵に描いた餅にならないように、実質が伴うような、積み重ねて積み重ねて広がっていきけるような計画になれば良いと思っております。

委員長： はい、たいへん建設的なご意見をいただき、ありがとうございました。
それでは、関連しても結構です。その他何か質問はございますか。

委員： 先程のご質問にもありましたように、平成 26 年度の内容と今回行う調査内容は、全く前と同じものをやるのか、時代の流れにおいて新たな項目も付け加えたのかどうか、その辺りがわかりません。そのところを、平成 26 年度と対比化させたら良いのではないかと思います。

委員長： はい、ご質問ありがとうございました。今やっている計画と、それから次の計画というものの関連性という事について、先程のご質問とも若干被るところがあろうかと思いますが、事務局サイドから答えられる範囲でお答えいただけたらと思います。お願いします。

事務局： 委員長の方からもお話があったとおり、やはり時代の変化に伴ってニーズの変化も多々あります。今回のアンケートにつきましては、先程少しお話させていただきましたけれども、まず、地域活動等についての意向のところ、**“今後行いたい活動”**や**“地域に必要な活動”**、また**“地域のつながりを築くための取り組み”**、**“地域情報等について希望する提供方法”**等、そういう点を新たにアンケートの項目として挙げさせていただいております。それから、災害時における活動として、**“災害に備えて自助活動を行っているか”**や、**“地域活動を行ううえで、行政にしてほしい支援はどういった項目なのか”**というところも新たに項目として挙げさせていただき、地域のニーズ等を把握したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員長： はい、ありがとうございました。実は私、昨日夜 7 時から NHK のニュースを京都で見えておまして、「あま市付近でスーパーセルの撮影に成功」という格好で、写真が大きく出ました。ご存知かと思いますが、全国ネットのニュースであま市の名前が出てきました。そういう中で、豪雨対応という事での問題提起でしたが、今日こちらに来てみたら別にどうという事はないと聞きまして、そのような今までと違う要素というのは、これからどんどん入ってくるという事、その事に危機感ないしは問題意識を持って今回は入れ込んでいこうという要素も 1 つ入りました、そのように整理できるかと思えます。
ありがとうございました。はい、どうぞ。

委員： 先程のお答えのように、例えば防災の事で支え合う地域づくりという中で、特に高齢者であったり、障がい者であったり、あるいは妊婦の方であったり、それから寝た

きりの方、というような方をどのようにみるのかと思っています。時折、問28の2の項目に“地域の高齢者や障がい者等”と書いてありますが、もっと具体的に妊婦の方とか、あるいは寝たきりの方とか、という事も選択肢の項目に入れてもらおうと、回答がしやすいのではないかと思います。いかがでしょうか。

委員長： 具体的な提起という事で、今すぐに項目を増やすという事は、技術的な事もあり難しいかと思っておりますので、その辺りは事務局として検討させていただくという事で、提起を受けたというように整理したいと思います。よろしいですか。

事務局： はい、貴重なご意見、ありがとうございます。事務局の方で検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長： はい、ありがとうございました。

委員： 同じような関連でございますけれども、災害があった時に言葉としては、自助とか公助とか共助とか言われますけれども、その辺りを表現した項目としては、この全部の項目を見て、どこに当てはまりますか。

委員長： その辺りはいかがでしょうか。

事務局： 自助につきましては、問24のところ、“ご自身で災害に備えてどういう自助活動を行っているか”というところで確認させていただきたいと思っております。公助の方は、問27の“行政にしてほしいこと”というところが公助の内容になりますので、そちらで行政にどういったニーズがあるのかといったところを確認させていただく予定でございますので、よろしくお願いいたします。

委員長： はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。

委員： 共助はどこにのっていますか。

事務局： 問26の“隣近所の人にどのような支援をしてほしいか”というところが共助の項目と考えておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長： よろしいでしょうか。

委員： 後で集計して考察する段階に入り、新たに入った項目は前と比較できないわけですから、そのへんの括りとかまとめとかお話とか、その辺りをどのように考えてみえるのですか。

委員長： これも技術的なことに属しますので、専門的な立場から一言ご説明させていただきたいと思います。我々の社会的な認識というのは、時代と共に確かに進んでいまして、「前の項目には無かったが、新たな問題意識を持って今ご提起いただいたようなそういう項目も入れた方がいい」という事になります。前回のデータと直接調べる比較対象という事は無理ですが、しかしそれと関連する項目と類推する事は可能である、というように整理できます。よって新たな項目を入れ込んでも、一定のデータというものはそれ自身も大きな意味・価値を持つ、というようにご理解いただいたら良いかと思えます。

委員： わかりました。最後のところにコメントを書く項目もありますから、前年度の時にそういう項目が出ていたという事もあると思いますが、もちろん時代の状況に影響を受けるわけですが。

委員長： はい、ありがとうございます。

蛇足ですが、今委員のご指摘にあった自助・公助の重要性という事ですが、私自身、実は 1995 年 1 月 17 日の阪神淡路大震災の 1 日後に、当時の厚生省の係の人と一緒に先遣隊という格好で、現地に入って行ったという経験をしました。全島を 1 日かけて回り、そこでどうなっているかという事を報告書にあげるという経験しました。そこで見た事の 1 つは、自助組織つまり町内会・自治会というものがきちりしている所と、そういうものが無い所、特に避難所での無秩序さと秩序、この重要性を如実に知る事となり、今でも強い記憶となって残っています。日本というのは、基本的には住民自治、自治組織、これらがある意味放っておいても機能するという幸せな時代がずっと続いて来ましたが、現在本当にそう言い切れるのかという事が問い直されています。だからこういう問題意識を持って、調査項目の中に 1 個入れ、そして今委員さんご指摘のところも更に強化して入れようと、このようになったと言えるのではないかと思います。ありがとうございます。

はい、その他いかがでしょうか。よろしいですか。

はい、ありがとうございます。ご意見・ご質問も無いようですので、次に進みたいと思います。

(3) その他

委員長： 『(3) その他』を議題といたします。その他、意見・ご質問等ございませんか。はい、どうぞ。

委員： 先程の地域コミュニティの話ですが、私が美和に来たのは 30 数年前ですが、その頃はきちんと組の組織が機能していて、情報共有もあって、「どこのどなたが入院された」とか、「亡くなった」とか、そういう話が当たり前のごとく地域に共有されて

いましたが、今は個人情報という言葉が先行してしまい、「あの方亡くなられたの？」と同じ組でも知らない。ただ、回覧板は回って来ますが、ただの行政のお知らせだけであって、本当に希薄になってきていると思います。「個人情報だから…」というのが先に出てしまうので、余計にお互い手を取りにくい部分があります。やはりここは行政が少し入って橋渡しをしていただかないと、地域が崩壊していくというわけではないですが、私の住宅などは引っ越した頃はみんな子育て世代で、それなりに、子供が小さければ交流もありましたが、高齢者所帯ばかりになって本当に交流が無くなってきています。そういう中で、あま市として地域のつながりを深めていくためには、かなりのこ入れがないと難しいのではないかと思います。『その他』で失礼しました。

委員長： 今、出していただいたご意見と言いますのは、実は日本全国津々浦々の特に市部のエリアで共通して起きている事です。「然は然り乍ら」という語がありまして、東日本大震災でもそうでしたし、阪神淡路大震災でもそうでしたが、我々はいざという時になると、これは私が勝手に言っている事ですけども、非常時スイッチが入るような社会的仕組みがあります。だからいざという時は、我が事より他者優先というスイッチがいきなり入り、その結果として、例えば長い配給等の列を乱さないとか、順番を自ら作ってしまうとか、そういう事が本来我々にはスイッチとしてあるというように認めた上で、今おっしゃった事はたいへん大事な事です。だから、そういう事に自信を持ちつつ、けれどもかつて無いような地域の状況というのはやはり目に見えてあるわけですので、これに対してどう取り組んでいくのか、第1回の地域福祉計画のところの“地域のきずな作り”というのが大きなテーマとなっておりますが、同じような事が今後も問われていかなければならない、それを具体的にどうやろうか、ぜひ今後この委員会の中で委員の皆さんに知恵を出していただきながら、あま市らしいきずな作りというものを考えていっても良いのではないかと、ここは自由な議論の場でもありますので、その辺りもまたぜひ今後の委員会の中で議論できたらと、そのような気がいたします。

たいへん重要な提起、ありがとうございました。

事務局も、これに関してでも良いですし、何か補足する事はございますか。

事務局： 今、委員長さんが言われたように、我々の方も防災に関しては力を入れております。昨年度ですが、避難行動要支援者の名簿を作りました。避難行動要支援者というのは、お一人で避難できない方を名簿化して、先程おっしゃられたように平常時から災害に備えるという事を始めました。先程も出ましたが、個人情報の兼ね合いがございますので、避難行動要支援にあたるであろうという方のところに、平常時に我々の方で出向いたり、紹介文書を送らせていただいて、「個人情報を平常時から提供してもいいですか」という許可をいただいております。その中で名簿をようやく昨年、作成する事ができましたので、今後は今おっしゃられたように、地元地域において個別支援計画を作っていこうというところで、社会福祉課含め、安全安心課、高齢福祉課、皆で連

絡を取り合って、そういうところも含めて徐々に進めていっております。先程も少しおっしゃられましたが、色々評価がどうだったかというご意見もあります。こちら、以前作らせていただいた地域福祉計画の51ページのところに、“計画の推進体制”という事が書いてあります。よく、計画を評価する時に“PDCA サイクル”という言葉を使いますが、社会福祉協議会とあま市の方で、この地域福祉計画はどれだけ進捗したのかという事で、毎年、評価をやっております。それぞれで評価を出し合って、わずかなではありますけれども次に向けてどのようにしたら良いか、という事は進めてきております。この度、作成・見直しの時期になりまして、PDCA サイクルで蓄積したものと、また今回委員の皆様からご意見をいただきまして、また再スタートというところに来ておりますので、今後も皆様のご意見をいただきたいと考えております。以上です。

委員 長： はい、ありがとうございました。はい、どうぞ、お願いします。

委員： 共助の災害時の住民の支え合う状況について、平日頃から、そういったいざという時にどう動くかという事を訓練しておかないといけません。明後日も防災訓練がありますが、健康な人だけが防災訓練に来ます。そして今では、防災訓練ではなく防災祭りかなというような和気あいあいとしていて、少しの緊張感はどこへ行ったのかという事すら心配します。そんな時に、弱者である弱者、障がい者、そして妊産婦、そういう人たちはどうなるのか、そういう人たちを上手く誘導できるような、そういう人たちも参加できるような、そういう訓練体制に持っていけないと計画倒れになってしまうという事です。その辺りをどう進めるかというのを、そろそろ個別の行動まで作るというのなら、上手く機能されるというところまで考えてもらいたいと思います。

委員 長： はい、ありがとうございました。全市をあげての大規模な防災訓練というのと、それから先程、主幹の方からご紹介いただいた、個別の要支援者に対する支援の練習と言いましょか、この辺り恐らく方法論というのは少し違うだろうという予感もしますが、だけれども今委員のご指摘も非常に大事な視点ですので、その辺りについて事務局で何かこんなふうを考えているという事があったら…。

事務局： 貴重なご意見、ありがとうございます。今おっしゃられるように毎年同じような内容になってきている所もありますが、少しずつ変えてきている所もあります。また安全安心課、防災訓練の本部と連絡を取り合って、こういうご意見もありますという事で考えていきたいと思っております。以前にも色々なご意見がありまして、毎年防災訓練を午前中にやっていますけれども、夕暮れ時に涼しくなってからやったらどうかとか、そのようなご意見をいただく事もございます。災害はいつ来るのかわかりませんので、またいろんな意見をいただきまして、災害担当部局の方と福祉の中でも災害という部門がございまして、そういうところで色々発信していきたいと思っております。ありがと

うございました。

委員長： はい、ありがとうございます。その他、何かご意見・ご質問等ございますか。

はい、この策定委員会は今後まだまだ続きますので、その時その時皆さんお考えや事柄等々について本当に率直にご意見等いただいたら、それが計画を更に前に進めるといふ事になろうかと思っておりますので、積極的なご意見・ご質問等今後ともよろしく願ひしたいと思います。

その他、これは今日一言、言っておきたいというような事はございますか。よろしいですか。

それでは、ご意見・ご質問等この委員会の事については無いようでございますので、本日の協議事項はこれにて全て終了いたしました。皆さん、協力・ご参加いただきましてありがとうございます。

では、事務局の方にお返しします。

事務局： ありがとうございます。次回の策定委員会は、平成30年1月下旬頃に開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。また近くなりましたら、ご案内させていただきます。

それではこれもちまして、本日のあま市地域福祉計画策定委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。